

緊急時用浄水装置 DCF-1EN(S) 型取り扱い説明

緊急時用浄水装置 DCF-1EN(S) 型

●用途 プールや防火水槽の水をろ過後、滅菌して飲料水を生成します。

■取扱上の注意事項

■郭毒物、劇物、農薬、化学薬品、重金属は、除去できません。これらの物質の混入している恐れのある水源は、避けてください。

■PH（酸性、アルカリ性を示す指標）の飲料水基準は、5.8～8.6です。PH測定器のその基準に入らないときは、水源に何らかの物質が混入している可能性があるため、水源を変更してください。（防火用貯水槽水は炭酸ガス式中和装置で中和して飲料化します）

■海水の塩分は、除去できません。

■次亜塩素酸ナトリウム液添加及び濃度調整は、取扱説明書の滅菌方法に従い行ってください。

■蛇口から出てきた浄水は、30秒以上たってから飲用してください。

■浄化した水は、早めに飲用してください。時間がたつと残留塩素がなくなり細菌類が繁殖し体調を損なうおそれがあります。

■消毒薬液を希釈するときは、浄水装置の使用開始時に蛇口から水が出始めてから1分以上通水（捨て水）してから行なってください。

■本体は平らな場所に設置して使用してください

■保管や運搬をするときは、逆さにしたり横にしたりしないでください。

■滅菌剤やPH測定を試薬、フィルターカートリッジには使用期限があるので必ず確認してください。

■取り扱い要領



①水源に移動し、吸入、給水ホースを接続します。②吸入ホースを水源に投入します。



③吸水作業を行います。手動でもエンジンポンプでもどちらでスタートしてもかまいません。手動ポンプを左右に動かしてください。水が上がり始めるとポンプの動きが重くなるので、その後はポンプの振幅いっぱい動かしてください。またはエンジンポンプにて吸水します。ON-OFFスイッチをONにする。燃料コックを開ける（縦位置にする）チョークレバーをきかせる（燃料を濃くする）回転数調整レバーを少し上げてスターターロープを勢い良く引く。手動・動力とも呼び水不要です。エンジンが始動したらチョークを運転位置に戻し、回転数調整レバーを引いて回転を上げる。エンジンポンプの空運転（吸水時の一瞬はOKです）は厳禁です。ポンプインペラーが熱で焼けてしまいます、給水ホースから出てくる水は、塩素滅菌がされていないのでまだ飲まないで下さい。

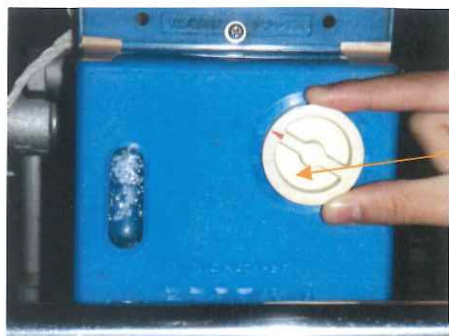


④滅菌作業をします

・薬液槽（専用ボトル）の下部約1cmぐらいにある線まで、次亜塩素酸ナトリウムを入れます。

・浄水装置のろ過水を満水になるまで入れ薬液を希釈します。

・塩素滅菌薬品の使用期間は1年の表示があります。がもう1年は有効塩素濃度が充分あるため使用することは可能です。残留塩素及びpH測定試薬の使用期限も塩素滅菌薬品に準じてください。



- ・薬液槽を元の位置におさめ、薬液ホースをつなぎます。
- ・通水しながら、滅菌器のダイヤルを目盛り2～3の位置にあわせます。滅菌器のガラスの点滴確認管から点滴を確認します。
- ・点滴のスピードは、ダイヤルで調整できます。ダイヤル2～3位だと1秒に2滴程度点滴されるスピードです。
- また、通水していないと滅菌液は吸入されません。

- ⑤ろ過水の残留塩素とpHの測定をします。
- ・残留塩素濃度が1.0mg/L位になるよう、ダイヤルで点滴量を調整します。
- ・残留塩素濃度が
薄いとき 点滴量を多くする
濃いとき 点滴量を少なくする
- ⑥手動ポンプを操作して、給水用水槽などに給水します。
- この水は、飲用可能です。

[残留塩素測定器の使用手法]

- ①この測定器は、残留塩素とpHが測定できます。左側の色見本が塩素測定で、右側の色見本がpH測定です。
- ②測定器の試験管内部を2～3回ろ過水で洗浄した後、ろ過水を入れます。
- ③塩素測定用DPD試薬(錠剤)を左側の色見本側の試験管の水に1錠入れます。
- ④pH測定用のフェノールレッド試薬を右側の色見本側の試験管の水に4～5滴落とします。
- ⑤残留塩素濃度0.5～1.0mg/L、pH5.8～8.6の間を共にクリアすれば飲用可です。
- ⑥pHの法律基準は、5.8～8.6までなので比色色見本のいずれかの色であれば基準内です。
- ⑦残留塩素濃度は、滅菌装置のダイヤルで調整できます。防火用貯水槽水でpHが高い(アルカリ性)場合は、炭酸ガス式中和装置で中和作業を行って下さい。

片づけ方法



- ⑦エンジンの燃料コックを閉じてガス欠で自然にエンジンが止まるまで通水運転をします。エンジン停止後、アクセルレバーを戻し、メインスイッチをOFFにする
- ⑧吸入、給水ホースを外します。ろ過器下部の黒い水抜き栓をねじって外し、手動ポンプを動かして水を抜きます。ホースやろ過器外部を乾かします。カバーをかけて収納します。
- このレバーを横に倒すと原水が取り出せます。エンジン試験などの際にろ過器へ水を送らなくて済みます。

【注意】※エンジンのキャブレター内のガソリンは抜いて保管して下さい。

【注意】※訓練等で使用した塩素薬品は植物等に影響のない土や砂利の上に捨て自然蒸発させて下さい。

【注意】※塩素薬品は製造年月から2年を目安に、また残留塩素測定器の測定試薬も2年をメドに交換してください。

【注意】※フィルターカートリッジは、目詰まりして手動ポンプの動きが重くなった時、及び目詰まりしていなくとも5年経過したものは新品と交換して下さい。

※詳しくは、青い付属品袋の中にある取扱説明書やビデオを良くお読み下さい。